

まちびと



MACHIBITO

春

特集

コロナ新時代を生きる

町田で輝く人に出会うコミュニティマガジン

2021 SPRING TAKE FREE



地域で活動する団体の良き「伴走者」

町田市の中ではさまざまなNPO法人や市民団体、地域団体が活動している。一般財団法人 町田市地域活動サポートオフィスは、まちの困りごとや課題の解決のために日々取り組んでいるさまざまな団体に寄り添い、伴走支援を続けている。

サポートオフィスには、つくる（立ち上げ支援）、ささえる（経営支援）、つなげる（協働支援）、かえる（変革支援）の4つのミッションが掲げられている。「地域でこんな活動をしたい。でもどうしたら良いのか分からない」といった会の立ち上げから運営ノウハウのアドバイス、団体と団体の協働支援など、その仕事は多方面にわたる。「私たちが主導するものではありません。それぞれの人や団体が主体的に動いていけるようにお手伝いするのがサポートオフィスの仕事です。私たちは常に良き伴走者として寄り添っていきます」と事務局長の喜田亮子さんは話す。

昨年は市内のNPOや市民団体、地域団体が一堂に会する第14回町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ！」の事務局を務めた。コロナ禍で開催が危ぶまれる中、オンライン

ン・市内分散開催という新しい開催方法にも挑戦した。まず実行委員会にオンラインによるリモート会議を導入。当初は慣れない人もいたが、「オンラインツールの活用が学べた」といった成果にもつながった。これまでの「まちカフェ！」は1日の開催だったが、期間を10日間にして3密を回避。地域活動への関心を高めてもらうと、それぞれの分野の活動や内容についてのオンラインセミナーやワークショップ、展示などを行った。33団体がイベントを開催し、約500人が参加。ボランティアの学生が「学生おうえん隊」として団体の企画に参加するといった新しい試みも行った。団体同士の協働も進み、サポートオフィスのミッションである「ささえる」、「つなげる」が実践できたといえるだろう。

喜田事務局長は「地域や社会の問題はさまざま。一つの団体ではできないことも連携することで解決策が見つかることも。そんな団体の接着剤のような役割を果たしてほしい」と話した。

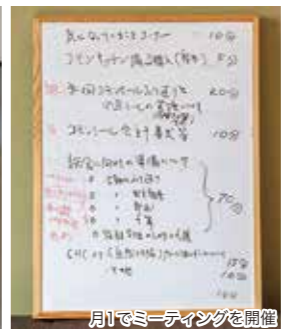
■一般財団法人 町田市地域活動サポートオフィス ☎0427854871 <https://machida-supportor.jp/>



コモンルームで楽しそうに語り合う居住者ら



プロ仕様の共用キッチン



月にミーティングを開催



皆で育てる野菜は収穫も自由

NPOコレクティブハウジング社



一つ屋根の下、ゆるやかにつながる

1970年代に北欧で発祥した「コレクティブハウス」。若年層から熟年層、子育て真っ盛りのファミリーや単身者など、血縁関係のない「多世代」「多世帯」が専用住居とともに暮らすライフスタイルだ。近年はアメリカを筆頭に世界中に拡大。国内でも数を増やすハウスが昨春、市内で初めて本町田に誕生した。

テレビ番組の影響もあって広く知られる「シェアハウス」との大きな違いは、それぞれの住居スペースが独立した形であること。バスやトイレ、キッチンなど生活に必要な機能はすべて各部屋にそろそろ。すなわち、プライベート空間はしっかりと確保されたうえで、他の居住者たちと生活の一部を分担するのがハウス流の暮らし方だ。

そのひとつが「コモンミール」。業務用の大きなオープンもある共用キッチンで、その日の当番が中心となって皆のために作る食事のことだ。料理好きはここぞとばかりに腕を振るい、高齢者は実家が恋しくなるようなお袋の味、苦手な人が四苦八苦して作った料理もご愛嬌。仕事などの状況に応じて食べる時間や場所は自由だが、皆で食卓を囲むひと

ときはハウスの暮らしを象徴するワンシーンでもある。

居住者同士の話し合いで決める共同運営の内容は、ガーデニングや家庭菜園、清掃、パーベキューなど、試行錯誤を繰り返しながら皆にとって快適な暮らしを見出していく。

そんな日々を通じて生まれるのは、ゆるやかな人間関係。泣いている赤ちゃんがいれば大人たちが代わるがわる抱っこしたり、共用スペースで遊ぶ子どもたちを高齢者がこやかに見守っていたり。ご近所付き合いが希薄化している昨今、顔見知りにもまれて暮らすハウスには古き良き日本を彷彿とさせる助け合いの精神がある。

「生活の一部をともにすることで生まれる人と人のつながりは、あらゆる世代にとって他の機会では得難いもの」と語るのは、運営をコーディネートするNPOコレクティブハウジング社の狩野三枝さんと矢田浩明さん。「孤独死や「孤育て」など、少子高齢化にまつわる社会課題解決の一手として多くの注目を集めている。

■NPOコレクティブハウジング社 ☎080-6660-1143（事務局）



サポートオフィスのスタッフ



喜田亮子事務局長



事業計画をつくる講座「まちづくりカレッジ」



相談を受けるスタッフ